
岐阜県立東濃フロンティア高等学校

校長 原 恵 市

学校住所 土岐市泉町河合1127-8 電話 0572-55-4151

- 1 会議の名称 岐阜県立東濃フロンティア高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|-------|-------|---|
| 会 長 | 山田 利彦 | 土岐市泉西公民館館長 |
| 副 会 長 | 松本 律子 | 土岐市保護区保護司会 |
| 委 員 | 成瀬 直幸 | 東濃鉄道多治見営業所助役 |
| | 宮崎 清一 | 泉町河合区長 |
| | 坂本 幾子 | 東濃フロンティア高等学校育友会本部役員 |
| | 村野 政章 | NPO法人Earth as Mother 本部副理事（兼「いくるば」事業統括長 |
| | 長江恵理子 | 岐阜県立はなの木苑東濃圏域発達障害地域支援マネージャー |
- 学校側
- | | |
|-------|--------|
| 原 恵市 | 校 長 |
| 三輪田久信 | 副校長 |
| 岩島 章雄 | 教 頭 |
| 原 美代 | 事務部長 |
| 松本 義一 | 教務主任 |
| 杉本 知宏 | 生徒指導主事 |
| 松浦 隆秋 | 進路指導主事 |
- 3 会議の目的 学校運営協議会委員による学校運営に係る事項の基本方針承認のもと、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むとともに、相互に連携、協働することによって学校運営を改善する。
- 4 開催日時 令和4年2月上旬～中旬 書面にて開催
- 5 会議の概要（委員の意見）
- (1) 各分掌の取組について
- 意見1：定時制・三部制・単位制の利点を生かした学習支援プログラムが浸透し、少人数クラスも成果を上げるなど学校運営が上手になされており、岐阜県下でも素晴らしい特色のある公立高校であると思う。
- 意見2：様々な事情があることは予想されるが、退学者数が少なくないことが残念である。退学者を出さないという熱い姿勢で教育に取り組んでほしい。
- 意見3：各分掌で、生徒の目線で業務にあたっていると感じた。多様な生徒が在籍している現実があるが、こうした姿勢を大切にしてほしい。
- 意見4：図書館に土岐市や東濃地方に関する書籍を増やし、生徒が地域理解を深め、地域を愛するようになる機会を増やしてほしい。
- 意見5：教務部のノート学習による学習支援はとても効果的である。生徒の学習の課題を把握し、生徒と共に解決を図る指導はとてもよい。
- 意見6：教育相談活動や特別支援教育活動の取組について、実際に本校に生徒が通学している保護者から話を聞くことがある。この学校が学び直しや新しい挑戦をしてみたいと思う気持ちを汲んでいることに感謝している。
- 意見7：保護者が子供の健康を管理する熱量は、保幼小中学校と進むにつれて少なくなっていく。言い換えれば関心が薄くなっていく。しかし本校の保健厚生部は生徒の実態を踏まえながら生徒が自分の健康や安全に意識を向けるように行事を計画的に実施していることがよい。

(2) 生徒会の取組について

- 意見1：コロナ禍のために、生徒会の多くの行事を諦めざるをえなかったと思う。しかし、工夫してこれまでにないいくつかの行事を開催することで、生徒たちが自分の高校生活を自分たち自身でつくっていると感じられたのではないかな。
- 意見2：生徒会の取組が地域と協働する機会となっており、今後益々必要とされる地域共生社会づくりの担い手として逞しさを身につけつつあると感じている。
- 意見3：高校生による相談会、あったかい言葉かけ運動は、本校の感受性豊かな生徒ならではの取組であると思う。今年度初めての取組としてとても評価できる。
- 意見4：高校生による相談会、あったかい言葉かけ運動のような活動こそ他人の気持ちを考え、他人への思いやりを大切にしたい未来へつなげる姿である。
- 意見5：朔陵祭（学校祭）に代わる「東フロを笑顔にする会」を開催できたことは、多くの行事が中止となる中、在学中のよい思い出ともなりとてもよかった。

(3) スクール・ポリシー（案）の承認について

スクール・ポリシー（案）は全会一致で承認された。

6 会議のまとめ

- ・書面開催となったが、委員は配付資料をもとにした貴重な意見が得られた。
- ・全会一致で承認されたスクール・ポリシーについては「東濃フロンティア高校にふさわしい」、「育てたい生徒像が具体的である」、「本気度が伝わる」といった肯定的な意見が多かった。また生徒、保護者と共有することの大切さについて意見が出た。来年度、委員の助言も得ながら、成果が上がるよう実践につなげたい。
- ・昨年に引き続きコロナ禍により様々な制約がある中での学校運営（生徒会活動を含む）であったが、感染防止対策を講じながら工夫して教育活動を展開した点について各委員から一定の評価を得た。
- ・本校の様々な取組にも関わらず、毎年一定数の退学者が出ていることについて委員からの指摘もあった。来年度はこれまでの取組も見直し、委員の助言も取り入れながら全職員でこの課題に取り組む必要がある。